

vSphere Replication 6.5 用 vRealize Orchestrator プラグインの使用

vSphere Replication 6.5



vmware®

最新の技術ドキュメントは VMware の Web サイト (<https://docs.vmware.com/jp/>) にあります
このドキュメントに関するご意見およびご感想がある場合は、docfeedback@vmware.com までお送りください。

VMware, Inc.
3401 Hillview Ave.
Palo Alto, CA 94304
www.vmware.com

ヴィエムウェア株式会社
105-0013 東京都港区浜松町 1-30-5
浜松町スクエア 13F
www.vmware.com/jp

Copyright © 2017 VMware, Inc. 無断転載を禁ず。著作権および商標情報。

目次

| | | |
|---|---|----|
| 1 | vSphere Replication プラグインの使用 | 4 |
| 2 | vSphere Replication 用の vRealize Orchestrator プラグインによる自動操作 | 5 |
| 3 | vSphere Replication プラグインのインストール | 7 |
| | 機能前提条件 | 7 |
| | vSphere Replication プラグインのインストール、アップグレード、およびアンインストール | 8 |
| 4 | vSphere Replication プラグイン ワークフローの使用 | 9 |
| | vSphere Replication プラグインで使用可能なワークフロー | 9 |
| | vSphere Replication プラグインを使用するための前提条件 | 12 |
| | レプリケーションの構成ワークフロー | 12 |
| | 一時停止ワークフロー | 16 |
| | クラウドからのリカバリ ワークフロー | 17 |
| | クラウドへのリカバリ ワークフロー | 19 |
| | リモート サイト管理ワークフロー | 22 |
| | 再開ワークフロー | 25 |
| | レプリケーションの停止ワークフロー | 26 |
| | 同期ワークフロー | 27 |

vSphere Replication プラグインの使用

「vSphere Replication プラグインの使用」では、VMware vSphere Replication 用の VMware® vRealize Orchestrator プラグインの構成と使用に関する情報および注意について説明します。

対象読者

「vSphere Replication プラグインの使用」の情報は、vSphere Replication プラグインを使用して vSphere 環境でレプリケーションおよび構成タスクを自動化する熟練管理者向けです。この情報は、仮想マシン テクノロジー、vRealize Orchestrator のワークフロー開発、および VMware vSphere Replication を理解した熟練ユーザー向けに作成されています。

vRealize Orchestrator の詳細については、http://www.vmware.com/support/pubs/orchestrator_pubs.html を参照してください。

vSphere Replication の詳細については、<https://www.vmware.com/support/pubs/vsphere-replication-pubs.html> を参照してください。

vSphere Replication 用の vRealize Orchestrator プラグインによる自動操作

2

vSphere Replication 用の vRealize Orchestrator プラグインは、特定の vSphere Replication 操作の自動化機能を拡張します。

vSphere Replication プラグインには、vRealize Orchestrator のアクション、ワークフロー、特定のイベントが発生した場合にアクションをトリガするポリシー テンプレート、vSphere Replication API の指定した要素をワークフローに公開するためのスクリプティング オブジェクトが含まれます。このプラグインを使用すると、仮想マシンのレプリケーション構成の自動化、移行と実際のリカバリの実行、ローカル サイトとリモート サイトの管理、および仮想マシン データの同期を行うことができます。

このプラグインは、レプリケーションを構成および管理するためのアクションとワークフローを提供します。

- ターゲット vCenter Server またはクラウド サイトへの仮想マシンの送信レプリケーションを構成する
- ターゲット vCenter Server またはクラウド サイトからの仮想マシンの受信レプリケーションを構成する
- ターゲット vCenter Server またはクラウド サイトへの仮想マシンの送信レプリケーションを一時停止、再開、または停止する
- ターゲット vCenter Server またはクラウド サイトからの仮想マシンの受信レプリケーションを一時停止、再開、または停止する

このプラグインは、リカバリを実行するためのアクションとワークフローを提供します。

- ターゲット クラウド サイトとの間で計画移行を実行する
- ターゲット クラウド サイトとの間で実際のリカバリを実行する
- ターゲット クラウド サイトとの間でテスト クリーンアップを実行する
- ターゲット クラウド サイトとの間でテスト リカバリを実行する

このプラグインは、リモート サイトを管理するためのアクションとワークフローを提供します。

- ローカル サイトとターゲット vCenter Server またはクラウド サイトをペアリングする
- スタンドアロン組織、クラウド、または vCenter Server サイトを登録する
- スタンドアロン組織、クラウド、または vCenter Server サイトを登録解除する

このプラグインは、仮想マシン データを同期するためのアクションとワークフローを提供します。

- ターゲット vCenter Server またはクラウド サイトへの完全な同期
- ターゲット クラウド サイトとのオフライン同期

- ターゲット vCenter Server サイトへのオフライン同期
- ターゲット クラウド サイトとの間でレプリケーションを同期する
- ターゲット vCenter Server サイトへのレプリケーションを同期する

vSphere Replication プラグインのインストール

3

ローカル vSphere Replication サイトでワークフローを作成して実行するには、vSphere Replication プラグインを vRealize Orchestrator にインストールして構成する必要があります。

この章では次のトピックについて説明します。

- [機能前提条件](#)
- [vSphere Replication プラグインのインストール、アップグレード、およびアンインストール](#)

機能前提条件

vSphere Replication プラグインをインストールおよび使用するには、システムが特定の機能前提条件を満たす必要があります。

vSphere Replication

使用する vSphere Replication プラグインのバージョンと vSphere Replication に互換性があることを確認します。

vSphere Replication プラグインと vSphere Replication との互換性の詳細については、『VMware vRealize Orchestrator Plug-In for vSphere Replication 6.5 リリース ノート』を参照してください。

vSphere Replication のセットアップの詳細については、『vSphere Replication のインストールと構成』ドキュメントを参照してください。

vRealize Orchestrator

vRealize Orchestrator のインスタンスが実行中で、そのバージョンが vSphere Replication および vSphere Replication プラグインのバージョンと互換性があることを確認します。

vSphere Replication と Orchestrator との互換性の詳細については、『vSphere Replication 6.5 Release Notes』および『Compatibility matrices for vSphere Replication』ドキュメントを参照してください。

vRealize Orchestrator のセットアップ、Orchestrator クライアントへのログイン、使用可能な認証方法の詳細については、『VMware vRealize Orchestrator のインストールと構成』ドキュメントを参照してください。

その他の前提条件

vRealize Orchestrator 用の vCenter Server プラグインがインストールされていることを確認します。
vRealize Orchestrator ドキュメントの「vCenter Server プラグインの使用」トピックを参照してください。

vSphere Replication プラグインのインストール、アップグレード、およびアンインストール

vSphere Replication プラグインを使用するには、最初に Orchestrator インスタンスにインストールします。

vSphere Replication プラグインは、vSphere Replication および Orchestrator と互換性があるバージョンをインストールする必要があります。

vSphere Replication プラグインのインストール

Orchestrator インスタンスが vSphere 環境と連携するように構成されている場合は、vSphere Replication プラグインをインストールできます。

vSphere 環境を使用するには、Orchestrator を構成する必要があります。vSphere 環境に対応するように Orchestrator を構成する方法の詳細については、『VMware vRealize Orchestrator のインストールと構成』ドキュメントの「vRealize Orchestrator の構成」セクションを参照してください。

vSphere Replication のダウンロードページから vSphere Replication プラグインのインストールファイル **.vmoapp** をダウンロードできます。

`https://<your_orchestrator_server>:8283/vco-controlcenter` の構成インターフェイスを使用すると、vSphere Replication プラグインをインストールできます。Orchestrator インスタンスでの **.vmoapp** ファイルのインストール方法の詳細については、『VMware vRealize Orchestrator のインストールと構成』ドキュメントの「Orchestrator プラグインの管理」トピックを参照してください。

vSphere Replication プラグインのアップグレード

vSphere Replication プラグインをアップグレードするには、新しいバージョンをインストールします。

vSphere Replication プラグイン ワークフローの使用

4

vSphere Replication プラグイン ワークフロー ライブラリには、vSphere Replication タスクの自動化に使用できるワークフローが含まれています。事前定義済みのワークフローを使用して、仮想マシンのレプリケーションの構成と管理、リモート サイトの追加/ペアリング/削除、テストの実行、リカバリ、クラウド サイトとの間でのクリーンアップを行うことができます。プラグインの事前定義済みのワークフローとスクリプト作成 API を使用すると、カスタム ワークフローを作成できます。

この章では次のトピックについて説明します。

- [vSphere Replication プラグインで使用可能なワークフロー](#)
- [vSphere Replication プラグインを使用するための前提条件](#)
- [レプリケーションの構成ワークフロー](#)
- [一時停止ワークフロー](#)
- [クラウドからのリカバリ ワークフロー](#)
- [クラウドへのリカバリ ワークフロー](#)
- [リモート サイト管理ワークフロー](#)
- [再開ワークフロー](#)
- [レプリケーションの停止ワークフロー](#)
- [同期ワークフロー](#)

vSphere Replication プラグインで使用可能なワークフロー

vSphere Replication プラグインは、レプリケーションの構成/一時停止/再開/停止ワークフロー、クラウドからのリカバリ ワークフロー、クラウドへのリカバリ ワークフロー、リモート サイト管理ワークフロー、および同期ワークフローを提供します。

表 4-1. [レプリケーションの構成] ワークフロー

| ワークフロー | 操作の説明 |
|--------------------|---|
| レプリケーションの構成 | ローカル サイトからターゲット vCenter Server サイトへの仮想マシンのレプリケーションを構成する |
| クラウドからのレプリケーションの構成 | ターゲット クラウド サイトからローカル サイトへの仮想マシンのレプリケーションを構成する |

表 4-1. [レプリケーションの構成] ワークフロー (続き)

| ワークフロー | 操作の説明 |
|-------------------|--|
| クラウドへのレプリケーションの構成 | ローカル サイトからターゲット クラウド サイトへの仮想マシンのレプリケーションを構成する |
| 複数の仮想マシンの保護 | ターゲット クラウドまたは vCenter Server サイトへの複数の仮想マシンのレプリケーションを構成する |
| クラウド レプリケーションの反転 | ターゲット クラウド サイト上のリカバリされた仮想マシンのレプリケーションを反転する |

表 4-2. [一時停止] ワークフロー

| ワークフロー | 操作の説明 |
|--------------------------------|--|
| クラウドからのレプリケーションの一時停止 | クラウドからローカル サイトへの仮想マシンのレプリケーションを一時停止する |
| クラウドへのレプリケーションの一時停止 | ローカルからターゲット クラウド サイトへの仮想マシンのレプリケーションを一時停止する |
| vCenter Server へのレプリケーションの一時停止 | ローカル サイトからリモート vCenter Server サイトへの仮想マシンのレプリケーションを一時停止する |

表 4-3. [クラウドからのリカバリ] ワークフロー

| ワークフロー | 操作の説明 |
|-----------------------|---|
| クラウドからの計画移行の実行 | ターゲット クラウド サイトからローカル サイトに仮想マシンを移行する |
| クラウドからの実際のリカバリの実行 | リモート クラウド サイトからローカル サイトにレプリケートされた仮想マシンをリカバリする |
| クラウドからのテスト クリーンアップの実行 | リモート クラウド サイトからローカル サイトにレプリケートされた仮想マシンのテスト リカバリ結果をクリーンアップする |
| クラウドからのテスト リカバリの実行 | リモート クラウド サイトからローカル サイトにレプリケートされた仮想マシンのテスト リカバリを実行する |

表 4-4. [クラウドへのリカバリ] ワークフロー

| ワークフロー | 操作の説明 |
|--------------------------|--|
| クラウドへの計画移行の実行 | ローカル サイトからターゲット クラウド サイトに仮想マシンを移行する |
| クラウドへの実際のリカバリの実行 | ローカル サイトからターゲット クラウド サイトにレプリケートされた仮想マシンをリカバリする |
| クラウド サイトでのテスト クリーンアップの実行 | ターゲット クラウド サイトのレプリケートされた仮想マシンのテスト リカバリ結果をクリーンアップする |
| クラウドへのテスト クリーンアップの実行 | ターゲット クラウド サイトにレプリケートされた仮想マシンのテスト リカバリ結果をクリーンアップする |
| クラウド サイトでのテスト リカバリの実行 | ターゲット クラウド サイトにレプリケートされた仮想マシンのテスト リカバリをターゲット クラウド サイトで実行する |
| クラウドへのテスト リカバリの実行 | ターゲット クラウド サイトにレプリケートされた仮想マシンのテスト リカバリをローカル サイトで実行する |

表 4-5. [ペアリング] ワークフロー

| ワークフロー | 操作の説明 |
|---------------------------|--|
| vCenter Server サイトとのペアリング | ローカル サイトをリモート vCenter Server サイトに接続してペアリングする |
| クラウド サイトとのペアリング | ローカル サイトをリモート クラウド サイトに接続してペアリングする |
| クラウド サイトの登録 | ペアリングされたクラウド サイトのログイン認証情報を登録する |
| スタンドアロン組織の登録 | ペアリングされたスタンドアロン組織のログイン認証情報を登録する |
| vCenter Server サイトの登録 | ペアリングされた vCenter Server サイトのログイン認証情報を登録する |
| クラウド サイトの登録解除 | ペアリングされたクラウド サイトの保存されたログイン認証情報を削除する |
| スタンドアロン組織の登録解除 | ペアリングされたクラウド サイトの保存されたログイン認証情報を削除する |
| vCenter Server サイトの登録解除 | ペアリングされた vCenter Server サイトの保存されたログイン認証情報を削除する |

表 4-6. [再開] ワークフロー

| ワークフロー | 操作の説明 |
|------------------------------|--|
| クラウドからのレプリケーションの再開 | クラウドからローカル サイトへの仮想マシンのレプリケーションを再開する |
| クラウドへのレプリケーションの再開 | ローカル からクラウド サイトへの仮想マシンのレプリケーションを再開する |
| vCenter Server へのレプリケーションの再開 | ローカル サイトからリモート vCenter Server サイトへの仮想マシンのレプリケーションを再開する |

表 4-7. [レプリケーションの停止] ワークフロー

| ワークフロー | 操作の説明 |
|--------------------|--|
| レプリケーションの停止 | ローカル サイトからリモート vCenter Server サイトへの仮想マシンのレプリケーションを停止する |
| クラウドからのレプリケーションの停止 | クラウド サイトからローカル サイトへの仮想マシンのレプリケーションを停止する |
| クラウドへのレプリケーションの停止 | ローカル サイトからクラウド サイトへの仮想マシンのレプリケーションを停止する |

表 4-8. [同期] ワークフロー

| ワークフロー | 操作の説明 |
|--------------------------------|---|
| クラウドへのレプリケーションの完全同期 | レプリケートされた仮想マシンのクラウド サイトへの初期完全同期を実行する |
| vCenter Server へのレプリケーションの完全同期 | レプリケートされた仮想マシンのリモート vCenter Server サイトへの初期完全同期を実行する |
| クラウドからのレプリケーションのオフライン同期 | レプリケートされた仮想マシンのリモート クラウド サイトからのオフライン同期を実行する |

表 4-8. [同期] ワークフロー (続き)

| ワークフロー | 操作の説明 |
|-----------------------------------|--|
| クラウドへのレプリケーションのオフライン同期 | レプリケートされた仮想マシンのリモート クラウド サイトへのオフライン同期を実行する |
| vCenter Server へのレプリケーションのオフライン同期 | レプリケートされた仮想マシンのリモート vCenter Server サイトへのオフライン同期を実行する |
| クラウドからのレプリケーションの同期 | レプリケートされた仮想マシンのリモート クラウド サイトからの差分同期を実行する |
| クラウドへのレプリケーションの同期 | レプリケートされた仮想マシンのリモート クラウド サイトへの差分同期を実行する |
| vCenter Server へのレプリケーションの同期 | レプリケートされた仮想マシンのリモート vCenter Server サイトへの差分同期を実行する |

vSphere Replication プラグインを使用するための前提条件

vSphere Replication プラグインを使用するには、使用環境が特定の要件を満たす必要があります。

- Orchestrator を使用して vSphere インベントリ内のオブジェクトを管理し、オブジェクトに対してワークフローを実行する前に、vCenter Server プラグインを構成し、Orchestrator と統合する vCenter Server との間の接続パラメータを定義する必要があります。vSphere 環境に対応するように Orchestrator を構成する方法の詳細については、『VMware vRealize Orchestrator のインストールと構成』ドキュメントの「vRealize Orchestrator の構成」セクションを参照してください。
- ターゲット サイトとの間のワークフローを実行する前に、[vSphere Replication] > [リモート サイト管理] の順に選択して、ターゲット サイトを使用可能なワークフローに登録していることを確認します。

レプリケーションの構成ワークフロー

vSphere Replication プラグインの [レプリケーションの構成] ワークフローを使用すると、ローカル サイトとリモート vCenter Server またはクラウド サイト間の仮想マシンのレプリケーションを構成できます。

仮想マシンのレプリケーションを構成すると、vSphere Replication は初期構成タスクを開始します。初期構成タスクでは、ターゲット サイトにレプリカ仮想マシンが作成され、ソースとターゲット サイト間でデータ同期が実行されます。選択したワークフローのリカバリ設定で、複数の特定の時点 (MPIT) インスタンスを設定できます。

vSphere Replication は、最大で 24 個の仮想マシンのスナップショット インスタンスをターゲット サイトで保持します。

パワーオフ状態の仮想マシンのレプリケーションを構成することはできますが、データの同期は仮想マシンがパワーオンされたときに開始されます。ソース仮想マシンがパワーオフ状態のとき、レプリケーションは **Not active** ステータスになります。

レプリケーションの構成ワークフローの実行

vSphere Replication プラグインの [レプリケーションの構成] ディレクトリのワークフローは次の手順を使用して実行できます。

手順

- 1 Orchestrator クライアントに管理者としてログインし、左上隅の [設計] または [実行] を選択します。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 [ライブラリ] - [vSphere Replication] - [レプリケーションの構成] の順に選択します。
- 4 ワークフロー要素を右クリックして、[ワークフローの開始] を選択します。

レプリケーションの構成ワークフロー

このワークフローは、ローカル サイトから別の vCenter Server サイトへの仮想マシンのレプリケーションを構成します。

仮想マシンがパワーオンされていない場合、レプリケーションは構成されますが、初期完全同期は仮想マシンがパワーオンされたときに完了します。レプリケーションが構成されている仮想マシンに対してこのワークフローを実行することはできません。

表 4-9. [レプリケーションの構成] ワークフローの入力

| 入力 | | 説明 |
|------------|--------------|--|
| ソース | サイト | ローカル vSphere サイト |
| | ソースの仮想マシン | レプリケートする仮想マシン |
| ターゲット | サイト | リモート vSphere サイト |
| | ターゲット データストア | レプリケート先のリモート データストア |
| レプリケーション設定 | RPO (分単位) | リカバリ ポイントの目標 (分単位、デフォルト値は 240) |
| | ゲスト OS の静止 | OS の静止を有効にするとデータの一貫性が向上しますが、RPO 時間が制限されます |
| | ネットワーク圧縮 | レプリケーション データの圧縮を有効にするとネットワーク バンド幅が削減されますが、CPU 使用率が高くなります |
| | 特定の時点のインスタンス | 仮想マシンごとにサポートされるスナップショットの最大数は 24 です |
| | 有効な特定の時点 | 1 日あたりのインスタンス数 (日数を掛けた結果が 24 を超えないこと) |
| | 日数 | スナップショットが保持される日数 |

クラウドからのレプリケーションの構成ワークフロー

このワークフローは、クラウド サイトからローカル サイトへの仮想マシンまたは vApp のレプリケーションを構成します。

仮想マシンがパワーオンされていない場合、レプリケーションは構成されますが、初期完全同期は仮想マシンがパワーオンされたときに完了します。レプリケーションが構成されている仮想マシンに対してこのワークフローを実行することはできません。

表 4-10. [クラウドからのレプリケーションの構成] ワークフローの入力

| 入力 | | 説明 |
|----------------|--------------|--|
| ソース | クラウド サイト | リモート クラウド サイト |
| | ソースの vApp | レプリケートする vApp または仮想マシン |
| ターゲット | データストア | レプリケート先のローカル データストア |
| レプリケーション 設定 | RPO (分単位) | リカバリ ポイントの目標 (分単位、デフォルト値は 240) |
| | ゲスト OS の静止 | OS の静止を有効にするとデータの一貫性が向上しますが、RPO 時間が制限されます |
| | ネットワーク圧縮 | レプリケーション データの圧縮を有効にするとネットワーク バンド幅が削減されますが、CPU 使用率が高くなります |
| | 特定の時点のインスタンス | 仮想マシンごとにサポートされるスナップショットの最大数は 24 です |
| | 有効な特定の 時点 | 1 日あたりのインスタンス数 (日数を掛けた結果が 24 を超えないこと) |
| | 日数 | スナップショットが保持される日数 |

クラウドへのレプリケーションの構成ワークフロー

このワークフローは、ローカル サイトから登録されているクラウド サイトへの仮想マシンのレプリケーションを構成します。

仮想マシンがパワーオンされていない場合、レプリケーションは構成されますが、初期完全同期は仮想マシンがパワーオンされたときに完了します。レプリケーションが構成されている仮想マシンに対してこのワークフローを実行することはできません。

表 4-11. [クラウドへのレプリケーションの構成] ワークフローの入力

| 入力 | | 説明 |
|------------|-------------------------------------|--|
| ソース | サイト | ローカル vSphere サイト |
| | ソースの仮想マシン | レプリケートする仮想マシン |
| ターゲット | クラウド サイト | リモート クラウド サイト |
| | レプリケーション シードの使用 | 初期同期には、仮想マシン ディスク ファイルを使用します |
| | レプリケーション シードとして使用する、以前にインポートした vApp | インポートしたレプリケーションシードがある vApp または仮想マシン |
| レプリケーション設定 | RPO (分単位) | リカバリ ポイントの目標 (分単位、デフォルト値は 240) |
| | ゲスト OS の静止 | OS の静止を有効にするとデータの一貫性が向上しますが、RPO 時間が制限されます |
| | ネットワーク圧縮 | レプリケーション データの圧縮を有効にするとネットワーク バンド幅が削減されますが、CPU 使用率が高くなります |
| | 特定の時点のインスタンス | 仮想マシンごとにサポートされるスナップショットの最大数は 24 です |

表 4-11. [クラウドへのレプリケーションの構成] ワークフローの入力 (続き)

| 入力 | | 説明 |
|----------|--|--------------------|
| 有効な特定の時点 | 1 日あたりのインスタンス数 (日数を掛けた結果が 24 を超えないこと) | 1 日に作成するスナップショットの数 |
| | 日数 | スナップショットが保持される日数 |

複数の仮想マシンの保護ワークフロー

このワークフローは、ローカル サイトからリモート vSphere またはクラウド サイトへの複数の仮想マシンのレプリケーションを構成します。

選択した 1 台またはすべての仮想マシンがパワーオンされていない場合、レプリケーションは構成されますが、初期完全同期は仮想マシンがパワーオンされたときに完了します。このワークフローは、仮想マシンの配列に含まれるレプリケートされた仮想マシンに対して実行できますが、その仮想マシンのレプリケーションは再構成されません。仮想マシンの配列に含まれる、まだレプリケートされていない残りの仮想マシンは、レプリケーション用に構成されます。

表 4-12. [複数の仮想マシンの保護] ワークフローの入力

| 入力 | | | 説明 |
|------------|-------------------------------|--|---|
| ソース | 保護する仮想マシンを管理する vCenter Server | | ローカル vCenter Server サイト |
| | ターゲット サイトのタイプを選択 | | ターゲット サイトのタイプ - リモート vCenter Server サイトまたはクラウド サイト |
| | レプリケートする仮想マシン | | リモート サイトにレプリケートする仮想マシンの配列 |
| ターゲット サイト | レプリケーションのターゲットとして使用するサイト | | 前の手順で選択したターゲット サイトのタイプに応じて、使用可能な vCenter Server またはクラウド サイトを選択します |
| 認証情報 | ユーザー名 | | 選択したターゲット サイトの認証情報 |
| | パスワード | | |
| ターゲットの場所 | ターゲット vCenter Server サイト | ターゲット データストア | ターゲットが vCenter Server サイトの場合にレプリケート先となるデータストア |
| | ターゲット クラウド サイト | レプリケーション シードの使用 レプリケーション シードとして使用する、以前にインポートした vApp | ターゲットがクラウド サイトの場合はレプリケーションにレプリケーション シードを使用します |
| レプリケーション設定 | ゲスト OS の静止 | | OS の静止を有効にするとデータの一貫性が向上しますが、RPO 時間が制限されます |
| | RPO (分単位) | | リカバリ ポイントの目標 (分単位、デフォルト値は 240) |
| | ネットワーク圧縮 | | レプリケーション データの圧縮を有効にするとネットワーク バンド幅が削減されますが、CPU 使用率が高くなります |
| | 特定の時点のインスタンス | | 仮想マシンごとにサポートされるスナップショットの最大数は 24 です |

表 4-12. [複数の仮想マシンの保護] ワークフローの入力 (続き)

| 入力 | 説明 |
|----------|---------------------------------------|
| 有効な特定の時点 | 1 日あたりのインスタンス数 (日数を掛けた結果が 24 を超えないこと) |
| 日数 | スナップショットが保持される日数 |

クラウド レプリケーションの反転ワークフロー

このワークフローは、クラウド サイトでリカバリされた仮想マシンのレプリケーションを反転し、再構成します。

仮想マシンは、ローカル vCenter Server サイトで **Recovered** 状態であり、電源がオフになっている必要があります。

表 4-13. [クラウド レプリケーションの反転] ワークフローの入力

| 入力 | 説明 |
|----------|-------------------------------|
| レプリケーション | ターゲット クラウド サイト |
| レプリケーション | 選択したクラウド サイトとの間でレプリケートする仮想マシン |

一時停止ワークフロー

[一時停止] ワークフローを使用すると、ソースとターゲット サイト間の仮想マシンのレプリケーションを一時停止できます。レプリケーションが一時停止されると、すべての同期呼び出しがブロックされ、ソースとターゲット サイト間でデータが同期されません。レプリケーションは構成解除されず、再開することができます。

一時停止ワークフローの実行

vSphere Replication プラグインの [一時停止] ディレクトリのワークフローは次の手順を使用して実行できます。

手順

- 1 Orchestrator クライアントに管理者としてログインし、左上隅の [設計] または [実行] を選択します。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 [ライブラリ] - [vSphere Replication] - [一時停止] の順に選択します。
- 4 ワークフロー要素を右クリックして、[ワークフローの開始] を選択します。

クラウドからのレプリケーションの一時停止ワークフロー

このワークフローは、リモート クラウド サイトからローカル サイトへの vApp または仮想マシンのレプリケーションを一時停止します。

表 4-14. [クラウドからのレプリケーションの一時停止] ワークフローの入力

| 入力 | 説明 |
|---------|--|
| 共通パラメータ | リモート仮想データセンター サイト |
| | 一時停止するレプリケーション |
| | リモート クラウド サイト |
| | レプリケーションを一時停止する、レプリケート元のクラウド サイトの仮想マシンまたは vApp |

クラウドへのレプリケーションの一時停止ワークフロー

このワークフローは、ローカル サイトからリモート クラウド サイトへの仮想マシンのレプリケーションを一時停止します。

表 4-15. [クラウドへのレプリケーションの一時停止] ワークフローの入力

| 入力 | 説明 |
|---------|--|
| 共通パラメータ | 一時停止するレプリケーション |
| | レプリケーションを一時停止する、レプリケート先のクラウド サイトの仮想マシン |

vCenter Server へのレプリケーションの一時停止

このワークフローは、ローカル サイトからリモート vCenter Server サイトへの仮想マシンのレプリケーションを一時停止します。

表 4-16. [vCenter Server へのレプリケーションの一時停止] ワークフローの入力

| 入力 | 説明 |
|----------|--|
| レプリケーション | 一時停止するレプリケーション |
| | レプリケーションを一時停止する、レプリケート先の vSphere サイトの仮想マシン |

クラウドからのリカバリ ワークフロー

[クラウドからのリカバリ] ワークフローを使用すると、リモート クラウド サイトからローカル サイトへの計画移行、テスト、および実際のリカバリを実行できます。各ワークフローは、一度に 1 台の仮想マシンに対して実行されます。

クラウドからのリカバリ ワークフローの実行

vSphere Replication プラグインの [クラウドからのリカバリ] ディレクトリのワークフローは次の手順を使用して実行できます。

手順

- 1 Orchestrator クライアントに管理者としてログインし、左上隅の [設計] または [実行] を選択します。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 [ライブラリ] - [vSphere Replication] - [クラウドからのリカバリ] の順に選択します。
- 4 ワークフロー要素を右クリックして、[ワークフローの開始] を選択します。

クラウドからの計画移行の実行ワークフロー

このワークフローは、リモート クラウド サイトからローカル サイトへの受信レプリケーションが構成されている仮想マシンの計画移行を実行します。

移行する仮想マシンのテスト リカバリを実行している場合は、結果をクリーンアップしたことを確認します。仮想マシンのテスト ステータスは vSphere Web Client で確認することができます。

リモート クラウド サイトからローカル サイトへの受信レプリケーションが構成されている仮想マシンを選択する必要があります。

表 4-17. [クラウドからの計画移行の実行] ワークフローの入力

| 入力 | | 説明 |
|----------|--------------------------------|--|
| レプリケーション | クラウド サイト | 仮想マシンの移行元のターゲットクラウドサイト |
| | レプリケーション | ローカル サイトに移行する仮想マシン |
| リカバリ設定 | 仮想マシン フォルダ | 仮想マシンの移行先のローカル vCenter Server 上の仮想マシン フォルダ |
| | リソース プール | 仮想マシンの移行先のローカル vCenter Server 上のリソース プール |
| | リカバリされた仮想マシンをパワーオン | 移行が完了した後のリカバリされた仮想マシンの電源状態 |
| | ゲスト シャットダウン (VMware Tools が必要) | 移行が完了した後のソース仮想マシンの電源状態 |

クラウドからの実際のリカバリの実行

このワークフローは、ターゲット クラウド サイトからローカル サイトに仮想マシンをリカバリします。

ターゲット クラウド サイトからの受信レプリケーションが構成されている仮想マシンを選択する必要があります。リカバリされた仮想マシン用に、同じデータセンターにある仮想マシン フォルダとリソース プールを選択する必要があります。

表 4-18. [クラウドからの実際のリカバリの実行] ワークフローの入力

| 入力 | | 説明 |
|----------|--------------------|--|
| レプリケーション | クラウド サイト | 仮想マシンのリカバリ元のターゲット クラウド サイト |
| | レプリケーション | ローカル サイトにリカバリする仮想マシン |
| リカバリ設定 | 仮想マシン フォルダ | 仮想マシンのリカバリ先のローカル vCenter Server 上の仮想マシン フォルダ |
| | リソース プール | 仮想マシンのリカバリ先のローカル vCenter Server 上のリソース プール |
| | リカバリされた仮想マシンをパワーオン | リカバリされた仮想マシンの電源状態 |

クラウドからのテスト クリーンアップの実行ワークフロー

このワークフローは、ターゲット クラウド サイトからの受信レプリケーションが構成されている仮想マシンのローカル サイトでのテスト リカバリ結果をクリーンアップします。

このワークフローでは、実行前に仮想マシンのテスト ステータスが確認されません。このワークフローは、リカバリがテストされていない仮想マシンに対しても実行することができます。リモート クラウド サイトからローカル サイトへの受信レプリケーションが構成されている仮想マシンを選択する必要があります。

表 4-19. [クラウドからのテスト クリーンアップの実行] ワークフローの入力

| 入力 | | 説明 |
|----------|----------|---|
| サイト | クラウド サイト | テスト リカバリの実行元のターゲット クラウド サイト |
| レプリケーション | レプリケーション | ターゲット クラウド サイトからローカル サイトへの受信レプリケーションが構成されている仮想マシン |

クラウドからのテスト リカバリの実行ワークフロー

このワークフローは、ターゲット クラウド サイトからの受信レプリケーションが構成されている仮想マシンに対して、テスト リカバリをローカル サイトで実行します。

リカバリは、ローカル サイトでテストされます。ターゲット クラウド サイトからの受信レプリケーションが構成されている仮想マシンを選択する必要があります。このワークフローを実行する前に、以前のテスト リカバリ結果がクリーンアップされていることを確認します。ワークフローが終了すると、仮想マシンのテスト ステータスが変更されます。計画移行または実際のリカバリを実行する前に、結果をクリーンアップする必要があります。

表 4-20. [クラウドからのテスト リカバリの実行] ワークフローの入力

| 入力 | | 説明 |
|----------|----------------------|---|
| レプリケーション | クラウド サイト | テスト リカバリの実行元のターゲット クラウド サイト |
| | レプリケーション | テスト リカバリを実行する、受信レプリケーションが構成されている仮想マシン |
| リカバリ設定 | 仮想マシン フォルダ | 仮想マシン リカバリをテストする、ローカル vCenter Server 上の仮想マシン フォルダ |
| | リソース プール | 仮想マシン リカバリをテストする、ローカル vCenter Server 上のリソース プール |
| | 最新の変更の同期 | RPO の期間内での仮想マシンに対する変更のオンライン同期 |
| | リカバリ済み仮想マシンをパワーオンします | リカバリされた仮想マシンの電源状態 |

クラウドへのリカバリ ワークフロー

[クラウドへのリカバリ] ワークフローを使用すると、ローカル サイトからリモート クラウド サイトへの計画移行、テスト、および実際のリカバリを実行できます。各ワークフローは、一度に 1 台の仮想マシンに対して実行されます。

クラウドへのリカバリ ワークフローの実行

vSphere Replication プラグインの [クラウドへのリカバリ] ディレクトリのワークフローは次の手順を使用して実行できます。

手順

- 1 Orchestrator クライアントに管理者としてログインし、左上隅の [設計] または [実行] を選択します。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 [ライブラリ] - [vSphere Replication] - [クラウドへのリカバリ] の順に選択します。
- 4 ワークフロー要素を右クリックして、[ワークフローの開始] を選択します。

クラウドへの計画移行の実行ワークフロー

このワークフローは、ローカル サイトからターゲット クラウド サイトへの送信レプリケーションが構成されている仮想マシンに対して計画移行を実行します。

移行する仮想マシンのテスト リカバリを実行している場合は、結果をクリーンアップしたことを確認します。仮想マシンのテスト ステータスは vSphere Web Client で確認することができます。

ローカル サイトからターゲット クラウド サイトへの送信レプリケーションが構成されている仮想マシンを選択する必要があります。

表 4-21. [クラウドへの計画移行の実行] ワークフローの入力

| 入力 | 説明 |
|----------|-------------------------------|
| レプリケーション | クラウド サイト |
| | レプリケーション |
| リカバリ設定 | リカバリされた仮想マシンをパワーオン |
| | ゲストシャットダウン (VMware Tools が必要) |
| | 仮想マシンの移行先のターゲットクラウド サイト |
| | クラウド サイトに移行する仮想マシン |
| | 移行が完了した後のリカバリされた仮想マシンの電源状態 |
| | 移行が完了した後のソース仮想マシンの電源状態 |

クラウド サイトでのテスト クリーンアップの実行ワークフロー

このワークフローは、ターゲット クラウド サイトへの送信レプリケーションが構成されている仮想マシンのリモート クラウド サイトでのテスト リカバリ結果をクリーンアップします。

このワークフローは、ターゲット クラウド サイトで実行されます。このワークフローを実行する前に、ターゲット クラウド サイトで仮想マシンのテスト リカバリを実行する必要があります。

表 4-22. [クラウド サイトでのテスト クリーンアップの実行] ワークフローの入力

| 入力 | 説明 |
|----------|---|
| レプリケーション | ローカル サイトからターゲット クラウド サイトへの送信レプリケーションが構成されている仮想マシン |

クラウドへのテスト リカバリの実行ワークフロー

このワークフローは、ターゲット クラウド サイトへの送信レプリケーションが構成されている仮想マシンのローカル サイトでのテスト リカバリ結果をクリーンアップします。

このワークフローでは、実行前に仮想マシンのテスト ステータスが確認されます。このワークフローは、リカバリがテストされている仮想マシンに対して実行する必要があります。ターゲット クラウド サイトへの送信レプリケーションが構成されている仮想マシンを選択する必要があります。

表 4-23. [クラウドへのテスト リカバリの実行] ワークフローの入力

| 入力 | 説明 |
|----------|---|
| サイト | クラウド サイト テスト リカバリの実行先のターゲット クラウド サイト |
| レプリケーション | レプリケーション ローカル サイトからターゲット クラウド サイトへの送信レプリケーションが構成されている仮想マシン |

クラウドへの実際のリカバリの実行ワークフロー

このワークフローは、ローカル サイトからターゲット クラウド サイトに仮想マシンをリカバリします。

ターゲット クラウド サイトへの送信レプリケーションが構成されている仮想マシンを選択する必要があります。

表 4-24. [クラウドへの実際のリカバリの実行] ワークフローの入力

| 入力 | 説明 |
|--------|---|
| リカバリ設定 | レプリケーション クラウド サイトにリカバリする仮想マシン |
| | リカバリ済み仮想マシンをパワーオンします リカバリされた仮想マシンの電源状態 |

クラウド サイトでのテスト リカバリの実行ワークフロー

このワークフローは、ターゲット クラウド サイトへの送信レプリケーションが構成されている仮想マシンに対して、テスト リカバ리를リモート クラウド サイトで実行します。

このワークフローは、ターゲット クラウド サイトで実行されます。このワークフローは、ローカル サイトからターゲット クラウド サイトへの送信レプリケーションが構成されている仮想マシンに対して実行する必要があります。

表 4-25. [クラウド サイトでのテスト リカバリの実行] ワークフローの入力

| 入力 | 説明 |
|--------|---|
| リカバリ設定 | レプリケーション テスト リカバ리를実行する、ターゲット クラウド サイトへの送信レプリケーションが構成されている仮想マシン |
| | 最新の変更の同期 RPO の期間内での仮想マシンに対する変更のオンライン同期 |
| | リカバリ済み仮想マシンをパワーオンします リカバリされた仮想マシンの電源状態 |

クラウドへのテスト リカバリの実行

このワークフローは、クラウド サイトへの送信レプリケーションが構成されている仮想マシンに対して、テスト リカバリをローカル サイトで実行します。

リカバリは、ローカル サイトでテストされます。ターゲット クラウド サイトへの送信レプリケーションが構成されている仮想マシンを選択する必要があります。このワークフローを実行する前に、以前のテスト リカバリ結果がクリーンアップされていることを確認します。ワークフローが終了すると、仮想マシンのテスト ステータスが変更されます。計画移行または実際のリカバリを実行する前に、結果をクリーンアップする必要があります。

表 4-26. [クラウドへのテスト リカバリの実行] ワークフローの入力

| 入力 | | 説明 |
|----------|--------------------|---------------------------------------|
| レプリケーション | サイト | テスト リカバリの実行先のターゲット クラウド サイト |
| | レプリケーション | テスト リカバリを実行する、送信レプリケーションが構成されている仮想マシン |
| リカバリ設定 | リカバリされた仮想マシンをパワーオン | リカバリされた仮想マシンの電源状態 |
| | 最新の変更の同期 | RPO の期間内での仮想マシンに対する変更のオンライン同期 |

リモート サイト管理ワークフロー

[リモート サイト管理] ワークフローを使用すると、ローカル サイトと、異なる vCenter Server が管理するリモート サイトまたはリモート クラウド サイトとの間の接続を構成できます。リモート サイトへのレプリケーション タスクを構成する前に、ローカル サイトとリモート サイトをペアリングする必要があります。

リモート サイト管理ワークフローの実行

vSphere Replication プラグインの [リモート サイト管理] ディレクトリのワークフローは次の手順を使用して実行できます。

手順

- 1 Orchestrator クライアントに管理者としてログインし、左上隅の [設計] または [実行] を選択します。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 [ライブラリ] - [vSphere Replication] - [リモート サイト管理] の順に選択します。
- 4 ワークフロー要素を右クリックして、[ワークフローの開始] を選択します。

クラウド サイトとのペアリング

このワークフローは、ローカル サイトとターゲット クラウド サイト間の接続を構成します。

表 4-27. [クラウド サイトとのペアリング] ワークフローの入力

| 入力 | | 説明 |
|----------|----------------------------|-----------------------------|
| ローカル サイト | ローカル サイト | ローカル vCenter Server サイト |
| クラウド サイト | リモート クラウド API エンドポイントのアドレス | クラウド API エンドポイントのアドレス |
| | クラウド組織名 | スタンドアロン組織名 |
| | クラウド組織のユーザー名 | クラウド ユーザーの認証情報 |
| | パスワード | |
| | 証明書の警告を無視 | プロンプトなしでリモート サイトの証明書を受け入れます |

vCenter Server サイトとのペアリング ワークフロー

このワークフローは、ローカル サイトとリモート vCenter Server サイト間の接続を構成します。

表 4-28. [vCenter Server サイトとのペアリング] ワークフローの入力

| 入力 | | 説明 |
|----------|--------------------------------|-----------------------------|
| ローカル サイト | ローカル サイト | ローカル vCenter Server サイト |
| | ローカル サイトの Lookup Service のアドレス | ローカル の Lookup Service のアドレス |
| リモート サイト | リモート サイトの Lookup Service のアドレス | リモート の Lookup Service のアドレス |
| | リモート ユーザー名 | リモート SSO ユーザー |
| | パスワード | リモート SSO ユーザーのパスワード |
| | 証明書の警告を無視 | プロンプトなしでリモート サイトの証明書を受け入れます |

クラウド サイトの登録ワークフロー

このワークフローは、ローカル サイトとペアリングされているクラウド サイトのログイン認証情報を登録します。

表 4-29. [クラウド サイトの登録] ワークフローの入力

| 入力 | | 説明 |
|-----|-----------|-------------------------|
| サイト | クラウド サイト | ペアリングされているリモート クラウド サイト |
| | ユーザー名 | リモート クラウド サイトのユーザー |
| | パスワード | リモート ユーザーのパスワード |
| | 証明書の警告を無視 | プロンプトなしでリモートの証明書を受け入れます |

スタンドアロン組織の登録ワークフロー

このワークフローは、スタンドアロン組織のログイン認証情報を登録します。

表 4-30. [スタンドアロン組織の登録] ワークフローの入力

| 入力 | 説明 | |
|-----------|-----------|------------------------------|
| クラウド組織の詳細 | クラウドのアドレス | ペアリングされているリモート クラウド サイトのアドレス |
| | 組織名 | クラウド組織の名前 |
| | ユーザー名 | リモート クラウド サイトのユーザー |
| | パスワード | リモートクラウドサイトのユーザーのパスワード |
| | 証明書の警告を無視 | プロンプトなしでリモートの証明書を受け入れます |

vCenter Server サイトの登録ワークフロー

このワークフローは、リモート vCenter Server サイトのログイン認証情報を登録します。

表 4-31. [vCenter Server サイトの登録] ワークフローの入力

| 入力 | 説明 | |
|-----|-------|------------------------------|
| サイト | サイト | リモート vCenter Server サイトのアドレス |
| | ユーザー名 | リモート SSO ユーザー |
| | パスワード | リモート SSO ユーザーのパスワード |

クラウド サイトの登録解除ワークフロー

このワークフローは、ローカル サイトとペアリングされているクラウド サイトの保存されたログイン認証情報を削除します。このワークフローを実行してもペアリングは切断されません。

表 4-32. [クラウド サイトの登録解除] ワークフローの入力

| 入力 | 説明 | |
|-----|----------|-------------------------|
| サイト | クラウド サイト | ペアリングされているリモート クラウド サイト |

スタンドアロン組織の登録解除ワークフロー

このワークフローは、登録済みのスタンドアロン組織の保存されているログイン認証情報を削除します。このワークフローを実行してもローカルとクラウド サイト間のペアリングは切断されません。

表 4-33. [スタンドアロン組織の登録解除] ワークフローの入力

| 入力 | 説明 | |
|-----|----------------------|-------------------------------|
| サイト | 登録解除対象の登録済みスタンドアロン組織 | ペアリングされているクラウド サイト上のスタンドアロン組織 |

vCenter Server サイトの登録解除ワークフロー

このワークフローは、ローカル サイトとペアリングされている vCenter Server サイトの保存されたログイン認証情報を削除します。このワークフローを実行してもペアリングは切断されません。

表 4-34. [vCenter Server サイトの登録解除] ワークフローの入力

| 入力 | 説明 |
|-----|--|
| サイト | サイト ペアリングされているリモート vCenter Server サイト |

再開ワークフロー

[再開] ワークフローを使用すると、ローカル サイトとリモート vCenter Server またはクラウド サイトとの間で構成されている一時停止されたレプリケーションを再開できます。

再開ワークフローの実行

vSphere Replication プラグインの [再開] ディレクトリのワークフローは次の手順を使用して実行できます。

手順

- 1 Orchestrator クライアントに管理者としてログインし、左上隅の [設計] または [実行] を選択します。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 [ライブラリ] - [vSphere Replication] - [再開] の順に選択します。
- 4 ワークフロー要素を右クリックして、[ワークフローの開始] を選択します。

クラウドからのレプリケーションの再開ワークフロー

このワークフローは、ターゲット クラウド サイトからの一時停止した受信レプリケーションを再開します。

表 4-35. [クラウドからのレプリケーションの再開] ワークフローの入力

| 入力 | 説明 |
|---------|--|
| 共通パラメータ | リモート仮想データセンター サイト リモート クラウド サイト |
| | 再開するレプリケーション レプリケーションを再開する、レプリケート元のクラウド サイトの仮想マシン |

クラウドへのレプリケーションの再開ワークフロー

このワークフローは、ターゲット クラウド サイトへの一時停止した送信レプリケーションを再開します。

表 4-36. [クラウドへのレプリケーションの再開] ワークフローの入力

| 入力 | 説明 |
|---------|--|
| 共通パラメータ | 再開するレプリケーション レプリケーションを再開する、レプリケート先のクラウド サイトの仮想マシン |

vCenter Server へのレプリケーションの再開ワークフロー

このワークフローは、ターゲット vCenter Server サイトへの一時停止した送信レプリケーションを再開します。

表 4-37. [vCenter Server へのレプリケーションの再開] ワークフローの入力

| 入力 | 説明 |
|----------|--|
| レプリケーション | 再開するレプリケーション レプリケーションを再開する、レプリケート先の vSphere サイトの仮想マシン |

レプリケーションの停止ワークフロー

[レプリケーションの停止] ワークフローを使用すると、ローカル サイトとリモート vCenter Server またはクラウド サイト間に構成されている仮想マシンのレプリケーションを停止できます。レプリケーションを停止すると、レプリケーションが構成解除され、ターゲットの場所のレプリケートされたデータが削除されます。

レプリケーションの停止ワークフローの実行

vSphere Replication プラグインの [停止] ディレクトリのワークフローは次の手順を使用して実行できます。

手順

- 1 Orchestrator クライアントに管理者としてログインし、左上隅の [設計] または [実行] を選択します。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 [ライブラリ] - [vSphere Replication] - [停止] の順に選択します。
- 4 ワークフロー要素を右クリックして、[ワークフローの開始] を選択します。

レプリケーションの停止ワークフロー

このワークフローは、ターゲット vCenter Server サイトへの仮想マシンの送信レプリケーションを停止します。

表 4-38. [レプリケーションの停止] ワークフローの入力

| 入力 | 説明 |
|----------|-------------------------|
| サイト | リモート vCenter Server サイト |
| レプリケーション | レプリケーションを停止する仮想マシン |

クラウドからのレプリケーションの停止ワークフロー

このワークフローは、ターゲット クラウド サイトからローカル サイトへの受信レプリケーションを停止します。

表 4-39. [クラウドからのレプリケーションの停止] ワークフローの入力

| 入力 | 説明 |
|----------|----------------------|
| クラウド サイト | リモート クラウド サイト |
| レプリケーション | 受信レプリケーションを停止する仮想マシン |

クラウドへのレプリケーションの停止ワークフロー

このワークフローは、ローカル サイトからターゲット クラウド サイトへの送信レプリケーションを停止します。

表 4-40. [クラウドへのレプリケーションの停止] ワークフローの入力

| 入力 | 説明 |
|----------|----------------------|
| クラウド サイト | リモート ターゲット クラウド サイト |
| レプリケーション | 送信レプリケーションを停止する仮想マシン |

同期ワークフロー

同期ワークフローを使用すると、ローカル サイトとリモート vCenter Server またはクラウド サイト間でレプリケーションが構成されている仮想マシンのデータをレプリケートできます。

[同期] ワークフローの実行

vSphere Replication プラグインの [同期] ディレクトリのワークフローは次の手順を使用して実行できます。

手順

- 1 Orchestrator クライアントに管理者としてログインし、左上隅の [設計] または [実行] を選択します。
- 2 [ワークフロー] ビューをクリックします。
- 3 [ライブラリ] - [vSphere Replication] - [同期] の順に選択します。
- 4 ワークフロー要素を右クリックして、[ワークフローの開始] を選択します。

クラウドへのレプリケーションの完全同期ワークフロー

このワークフローは、ローカル サイトからターゲット クラウド サイトへの送信レプリケーションが構成されている仮想マシンに対して完全同期を実行します。

仮想マシンがパワーオン状態である必要があります。

表 4-41. [クラウドへのレプリケーションの完全同期] ワークフローの入力

| 入力 | 説明 |
|---------|---|
| 共通パラメータ | 同期するレプリケーション |
| | 完全同期を実行する、ターゲット クラウド サイトへの送信レプリケーションが構成されている仮想マシン |

[vCenter Server へのレプリケーションの完全同期] ワークフロー

このワークフローは、ローカル サイトからターゲット vCenter Server サイトへの送信レプリケーションが構成されている仮想マシンに対して完全同期を実行します。

仮想マシンがパワーオン状態である必要があります。

表 4-42. [vCenter Server へのレプリケーションの完全同期] ワークフローの入力

| 入力 | 説明 |
|---------|---|
| 共通パラメータ | 同期するレプリケーション |
| | 完全同期を実行する、ターゲット vCenter Server サイトへの送信レプリケーションが構成されている仮想マシン |

クラウドからのレプリケーションのオフライン同期ワークフロー

このワークフローは、ターゲット クラウド サイトからローカル サイトへの受信レプリケーションが構成されている仮想マシンに対してオフライン同期を実行します。

表 4-43. [クラウドからのレプリケーションのオフライン同期] ワークフローの入力

| 入力 | 説明 |
|---------|---|
| 共通パラメータ | リモート仮想データセンター サイト |
| | ターゲット クラウド サイト |
| | 同期するレプリケーション |
| | オフライン同期を実行する、ターゲット クラウド サイトからの受信レプリケーションが構成されている仮想マシン |

クラウドへのレプリケーションのオフライン同期ワークフロー

このワークフローは、ローカル サイトからターゲット クラウド サイトへの送信レプリケーションが構成されている仮想マシンに対してオフライン同期を実行します。

表 4-44. [クラウドへのレプリケーションのオフライン同期] ワークフローの入力

| 入力 | 説明 |
|---------|---|
| 共通パラメータ | 同期するレプリケーション |
| | ローカル サイトからターゲット クラウド サイトへの送信レプリケーションが構成されている仮想マシン |

vCenter Server へのレプリケーションのオフライン同期ワークフロー

このワークフローは、ターゲット vCenter Server サイトへの送信レプリケーションが構成されている仮想マシンに対してオフライン同期を実行します。

表 4-45. [vCenter Server へのレプリケーションのオフライン同期] ワークフローの入力

| 入力 | 説明 |
|---------|---|
| 共通パラメータ | 同期するレプリケーション |
| | ターゲット vCenter Server サイトへの発信レプリケーションが構成されている仮想マシン |

クラウドからのレプリケーションの同期ワークフロー

このワークフローは、ターゲット クラウド サイトからの受信レプリケーションが構成されている仮想マシンに対して差分同期を実行します。

表 4-46. [クラウドからのレプリケーションの同期] ワークフローの入力

| 入力 | 説明 |
|---------|--|
| 共通パラメータ | リモート仮想データセンター サイト |
| | 同期するレプリケーション |
| | 差分同期を実行する、ターゲット クラウド サイトからの受信レプリケーションが構成されている仮想マシン |

クラウドへのレプリケーションの同期ワークフロー

このワークフローは、ターゲット クラウド サイトへの送信レプリケーションが構成されている仮想マシンに対して差分同期を実行します。

表 4-47. [クラウドへのレプリケーションの同期] ワークフローの入力

| 入力 | 説明 |
|---------|---|
| 共通パラメータ | 同期するレプリケーション |
| | 差分同期を実行する、ターゲット クラウド サイトへの送信レプリケーションが構成されている仮想マシン |

vCenter Server へのレプリケーションの同期ワークフロー

このワークフローは、ターゲット vCenter Server サイトへの送信レプリケーションが構成されている仮想マシンに対して差分同期を実行します。

表 4-48. [vCenter Server へのレプリケーションの同期] ワークフローの入力

| 入力 | 説明 |
|---------|--|
| 共通パラメータ | 同期するレプリケーション |
| | 差分同期を実行する、ターゲット vCenter Server への送信レプリケーションが構成されている仮想マシン |